

葛飾区

# 緑化推進協力員だより

第47号



2023年3月 葛飾区緑化推進協力員会  
協力 葛飾区環境部環境課緑と花のまち推進係

## 【表 紙】

「区長室おもてなし装飾」の取り組みの様子です。お正月・ひな祭り・五月の節句・七夕・クリスマスの年5回、区長室・副区長室・区長応接室で緑を用いた装飾を行っています。写真は令和5年2月にひな祭りの飾りつけをした時の様子です。

葛飾区緑化推進協力員は、葛飾区緑の保護と育成に関する条例に基づき葛飾区長から委嘱された、緑の保護と育成に関する区の施策に協力し、緑に関する知識と熱意を持って自主的な地域活動を積極的に推進していく区民のボランティアです。

緑化推進協力員会全体での活動、区内を4つのブロックに分け、それぞれの地域で行うブロック活動、地域における個人での活動など、緑化に関する様々な普及啓発や活動を行っています。

この「緑化推進協力員だより」では、緑化推進協力員の日頃の活動や、緑化について感じたこと・考えたことなどをまとめたもので、年に2回発行しています。

# 目 次

	題 名	ブロック	氏 名 ペンネーム	ページ
1	活動記録（後期）	第1ブロック		1
2		第2ブロック		3
3		第3ブロック		4
4		第4ブロック		5
5	緑化は暮らしに心の豊かさを添えること なり	第1ブロック	佐々木 定治	6
6	冬バラの手入れと管理	第1ブロック	庄司 典昭	8
7	「柴又チューリップいっぱい2022」 に参加して	第1ブロック	中村 弘子	9
8	地球温暖化と花	第1ブロック	引地 詔子	11
9	バラの花のような椿	第2ブロック	五十嵐 美鈴	12
10	地球寿命一分弱の現実	第2ブロック	近藤 文子	14
11	その名はジャッコイ!!	第2ブロック	半田 建二	18
12	雑草雑感 Ⅱ	第3ブロック	下井 守	20
13	花と家庭菜園	第3ブロック	杉本 明	23
14	人との出会いは不思議	第4ブロック	田中 あや (ペンネーム)	24
15	編集後記		編 集 委 員	26



第1ブロック活動記録（令和4年10月1日から令和5年3月31日まで）

月日	会場	会議名・事業名	内容
10月2日	新宿プレイパーク	花壇の準備	花苗の処分、土の準備
7日	緑と花のいこいガーデン	花壇活動	水やり
12日	Zoom 自宅会議	生物多様性推進協議会	情報交換会
25日	Zoom 自宅会議	コンクール審査会	環境日記録の小道審査
26日	エコライフプラザ	かつしか花いっぱい のまちづくり推進協議会	定期会議
28日	水元3丁目	レポーター活動	自然観察と花いっぱいレポーター
29日	区立小学校	出前授業	生物多様性に関する出前授業
31日	金町駅前南口花壇	花壇植え替え準備	花の撤去と土の準備
11月7日	金町駅前南口花壇	冬の花植え付け	ビオラ、キンセンカ、ストック等
7日	江東区お台場	かつしか花いっぱい のまちづくり推進協議会	役員会議
9日	私立保育園	最終稲刈りとはげかけ	稲刈りとはげかけ
12日	水元3丁目	レポーター活動	自然観察と花いっぱいレポーター
13日	原田小学校	春の花の植栽	春の花の植栽
28日	柴又河川敷	柴又チューリップ	五泉市のチューリップ植え付け
29日	あらかわ水辺公園	あらかわ水辺公園	ワークショップ
12月2日	清水農園	園芸教室	底面給水プランター
3日	新小岩周辺	レポーター活動	花いっぱいレポーター活動
5日	新宿プレイパーク	花壇活動	チューリップ植え付け
12日	エコライフプラザ	かつしか花いっぱい のまちづくり推進協議会	役員会議
14日	Zoom 自宅会議	生物多様性推進協議会	情報交換会
16日	新小岩	レポーター活動	自然観察と花いっぱいレポーター
20日	区立中学校	理科講師としての授業	葛飾区の緑化について
1月11日	Zoom 自宅会議	生物多様性推進協議会	情報交換会
14日	区立小学校	出前授業	生物多様性に関する出前授業

20日	新宿プレイパーク	花壇の整備	花壇の皇帝ダリアの処分
30日	エコライフプラザ	かつしか花いっぱいの まちづくり推進協議会	役員会議
31日	区立中学校	理科講師としての授業	葛飾区の緑化について
2月3日	新宿プレイパーク	花壇の整備	花壇のジンジャーの処分
16日	Zoom 自宅会議	生物多様性実行性会議	生物多様性実行性計画策定会 議

第2ブロック活動記録（令和4年10月1日から令和5年3月31日まで）

月日	会場	会議名・事業名	内容
10月12日	白鳥四丁目公園花壇	花壇管理	水やり、除草、清掃 2名
22日	白鳥四丁目公園花壇	花壇管理	水やり、除草、清掃 2名
11月5日	白鳥四丁目公園花壇	花壇管理	アネモネ植付、ユーフォルビア （見本園処分苗）植付
19日	白鳥四丁目公園花壇	花壇管理	葉ボタン、スーパーアリッサム 植付 2名
24日	白鳥四丁目公園花壇	花壇管理	チューリップ球根植付、パンジー 他植付 2名
12月5日	曳舟川親水公園花壇	曳舟川親水公園花 筏の会の新規発足	花壇づくり。清水協力員に耕耘 してもらう。 8名
8日	曳舟川親水公園花壇	花壇管理	曳舟川親水公園花筏の会 花植 付 8名
8日	白鳥四丁目公園花壇	花壇管理	水やり、清掃 1名
18日	曳舟川親水公園花壇	球根植付	東京ガールスカウト 148 団 15名、団長上田様と第2プロ ック5名でチューリップ球根植 付
29日	曳舟川親水公園	曳舟川親水公園花 楽の会の新規発足	プランター設置 2名
1月 5日	曳舟川親水公園花壇	花壇管理	曳舟川親水公園花筏の会 水や り
11日	曳舟川親水公園	花壇管理	曳舟川親水公園花楽の会 花植 え 8名
22日	曳舟川親水公園	花壇管理	曳舟川親水公園花楽の会 水や り、花壇整備 3名
2月 5日	曳舟川親水公園	花壇管理	曳舟川親水公園花楽の会 水や り、花壇整備 2名

※白鳥四丁目公園花壇 毎週月曜日、清掃・水やり他（半田協力員）

※曳舟川親水公園花筏の会、曳舟川親水公園花楽の会 週1回手入れ・清掃

### 第3ブロック活動記録（令和4年10月1日から令和5年3月31日まで）

月日	会場	会議名・事業名	内容
10月 4日	屋上緑化見本園	園芸教室 苔玉づくり	参加者 20名：講師＋補助員 4名
8日	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 7名
26日	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 6名
11月 5日	渋江公園花壇	整地	参加者 6名
19日	渋江公園花壇	花苗植え付け	参加者 9名
12月 10日	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 7名
28日	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 4名
1月 14日	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ	参加者 6名
25日	渋江集い交流館	ブロック会議	参加者 12名、宿根草花壇の設置に関して
2月 11日	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 7名
22日	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 6名
3月 11日	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	
22日	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	

※第2土曜日と第4水曜日が渋江公園花壇での定期的な作業になっている。その間も、天候に応じて適宜水撒きなどをした。

※今期植付けた花苗は、よく咲くスミレ3トレー、デージー、キンギョソウ、ストック、シロタエギク、ハボタン、ノースポール、アネモネ（ボルト）、花かんざし、ガーデンシクラメン、カルーナの計 13 トレーであったが、植え付け直後から盗掘が続き、10 回に渡り 50 株以上が引き抜かれて持ち去られたり、抜いた場所に放置されたりした。以前から多少の持ち去りはあったが、今期のような甚大な被害にまでは至っていなかった。

※屋上緑化見本園花壇の維持管理は、3 班に分かれ、各班月 1 回分担している。

第4ブロック活動記録（令和4年10月1日から令和5年3月31日まで）

月日	会場	会議名・事業名	内容
10月 3日	区役所屋上緑化見本園	園芸教室	エアープランツを楽しもう 20名参加
8日	細田グリーンバンク	樹木フェア	区行事協力
11日	細田グリーンバンク	月例作業	花壇手入れ
11月 8日	細田グリーンバンク	月例作業	花壇手入れ
12月 6日	新小岩間栗公園	花壇植替え	冬・春花の入れ替え
8日	曳舟川親水公園	花壇植替え応援	
13日	細田グリーンバンク	月例作業	花壇手入れ
20日	細田グリーンバンク	チューリップ球根植 え付け	近くの無二保育園児と交流
29日	新小岩間栗公園	花壇手入れ応援	
1月 12日	新小岩間栗公園	花壇手入れ応援	
24日	細田グリーンバンク	花壇植え替え	冬・春花の入れ替え
2月 14日	細田グリーンバンク	月例作業	花壇手入れ
16日	新小岩間栗公園	花壇手入れ応援	
3月 14日	細田グリーンバンク	月例作業	花壇手入れ
16日	新小岩間栗公園	花壇手入れ応援	

\*新小岩間栗公園では、ブロック員1名が随時活動。



# 葛飾区緑化推進協力員だより 47号に寄せる

第1ブロック 佐々木 定治

## 緑化は暮らしに心の豊かさを添えることなり



9/8 花いっぱいレポート カリン 新小岩



10/4 ケイトウ 区役所前



11/9 稲のハゼカケ水元3丁目



11/12 花壇整備除草 新小岩

12/2 講習会 清水農園↓



緑を育てることは、暮らしの中に、楽しみを見つけることです。そして生きていくことに、心の豊かさを添えることだと思います。

このことは、与えられるものではなく、自分が求めて、活動することで、享受できるものだとも考えています。カリンの実も結実し、収穫し次の春まで花咲く日を待つ心。丹精込めて花を植え、育て、除草に汗を流す行動そのものが、緑を愛し緑を育てることです。そして、収穫に感謝し、緑を育てる学びも忘れずに！



# 自然から学ぶことは緑化の基本なり！



12/16 水元2丁目 寒桜 ↑

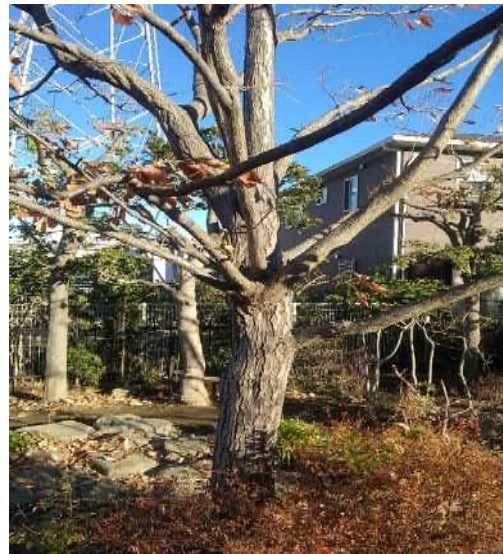


12/10 水元3丁目 クヌギ↑

12/20 区内小学校 自然と遊ぼう講座



2023/1/4 クヌギ↓



今ここにある「緑」が当たり前のようにあると思いがちですが、歩きを止めて少し立ち止まって考える機会を意識的に持つことにしています。これまでも、当たり前にあった自然が当たり前でなく、消滅してしまうことが度々ありました。特に近ごろは、その当たり前が頻繁に壊されているように思います。

日本の各地で起きる災害は、その顕著たるものです。そしてこのことは、世界的な規模で超加速的に当たりの自然が消失しているように感じます。

不思議	太陽って不思議だな	宇宙にとどまって	たいへんな光と熱とを	はなっている
	地球も不思議	海のような水を	どこへもこぼさずに	たくさんの生き物を
	かかえて	何万年以上も	正しく動いている	ああ不思議だ

～産経新聞 2023年1月4日 朝の詩から引用～

この詩は、地球の営みが未来永劫に当たり前のように続くことを願っての「不思議さ」に敬意を表している表現です。気候変動は猛スピードで変化し消滅や絶滅の方向に進んでいます。自然から学び、緑から学び、緑を暮らしの中に息づかせることが今こそ人間として大切な役目だと考え、行動したいものです。

## 冬バラの手入れと管理

1ブロック 庄司 典昭

秋も終わりに近づき、水元公園のイチヨウやメタセコイヤの落葉で辺りが黄色や茶色の絨毯になりはじめ、気温もめっきり下がってきました。この季節になると、グリーンプラザのバラ園も休眠期に入ります。そして2月頃までの3ヶ月間は、寒さに耐えて、来る春に美しい花を咲かせるための大切な期間になります。

秋に咲いた最後の花を楽しんだ後、作業としては、まず本剪定をします。しかし外芽を見つけ、密集した枝・枯れ枝や枝の太さを見極めて、バランス良くバッサリと剪定するには、かなりの経験を積む必要を感じました。

次に、寒肥のためにバラの周りの土を掘り起こしました。株元から30～40cmのところを円を描くように、深さ15～20cm程度の溝穴を掘り、1月に鶏ふん堆肥を施す予定です。堆肥には、植物が必要とする窒素・リン酸・カリを含みますが、その他に大量の腐葉土や油かす、骨粉も用意しています。穴掘りの頃、職業体験の中学生の生徒さん達が来て、バラの穴掘りや腐葉土にするケヤキの落葉集めの作業を一緒に行いました。穴掘りは大変だったようですが、来春には美しく咲いたバラの花を見に来園してくれると思います。



## 「柴又チューリップいっぱい2022」に参加して

1ブロック 中村 弘子

11月27日(日)江戸川柴又河川敷矢切の渡し前の柴又公園に行きました。当日は朝から秋晴れで、大勢の人達がおりました。スポーツをする学生や、ウォーキングに参加する人達等。チューリップ球根の植え付けイベントには初参加でした。チューリップの球根は新潟の五泉市で生産されたものでした。私の故郷は新潟市赤塚です。新潟市から弥彦へ行く中間です。越後平野は米(コシヒカリ)で有名です。農産物は、西瓜と大根です。

チューリップの球根を生産する農家もあります。今から60年余り前の風景が思い出されます。村の中学校の校舎は高台にありました。教室の窓からは、佐渡と弥彦山に角田山。そこに広がる畑には、菜の花畑の黄色、麦畑の緑、チューリップ畑の赤色です。チューリップは花が咲いて一週間位で、花を摘み取り球根を育てるそうです。このような田舎の景色を、中学校に赴任してこられた先生は、美しい所と感激しておられました。

雪国は、春が待ち遠しいのです。春祭り4月15日には、桜も咲き、よもぎで草もちを作ります。母は、楽しそうに草もちを沢山作り、親戚に配るのです。届けるのは、子供達です。柴又のチューリップが咲いたら、友人を誘って見に行こうと、今から楽しみです。

最近、子供の頃の事を思い出します。父も母も、弟達、祖父、皆んな若くて元



気で1日中働いていました。母は畑の隅に花を植えており咲くと持ち帰り、仏壇に飾っていました。今頃は、雪が降り、西風が吹き荒れて大変ですが、シベリアから、白鳥や冬鳥が沢山来て、昼間は田んぼで餌を食べ夜は湯で休みます。今年は12月に大雪が降り、大変のようです。やっぱり、春が待たれます。



## 地球温暖化と花

### 1ブロック 引地 詔子

2022年の花の咲き方が気になっています。夏の暑さと秋の季節が分からず、いつまでも気温の高い日が続くと思ったら、急に冬の温度が来たり、植物に影響が出ないとは思いません。例えば、水元公園グリーンプラザの舟花壇で、秋の七草＝クズ、オミナエシ、ハギ、キキョウ、カワラナデシコ、ススキ、フジバカマですが、フジバカマだけが育たず20cmくらいで、やっと花が咲き始めたけれど小さな花でした。話で聞くと、山の方が元気だそうです。水元公園の桜土手にも、区役所が植えた場所がありますが、やっぱり花が見れなかったと聞きました。その他、キクの花も10月ごろ咲き始めるのに、11月下旬～12月上旬でした。

でも、良いこともありました。毎年、水元公園で育てている千日紅の花は10月ごろ終わるけれど、今年は12月でも切り花として花束にしたり、ドライフラワーにすると、長期間花色が変わりません。

今、ホタルブクロの花が咲いたり、花も季節がわからなくなっているのかな？



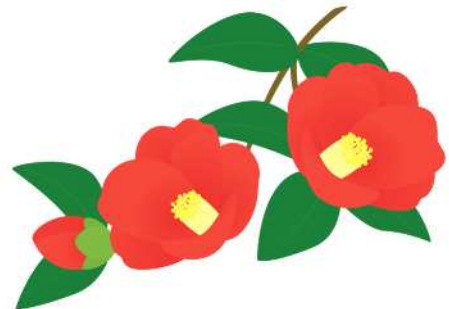
## バラの花のような椿

2ブロック 五十嵐 美鈴

私は昨年12月、友人2人と高速ジェット船20周年の記念のツアーで、伊豆大島の国際優秀つばき園に認定されている、「椿花ガーデン」の早咲き椿を見てきました。

まるでバラの花のような椿や、大輪の牡丹のような椿等、花の色や花の形もいろいろあり、その美しさに魅了されました。

国際優秀つばき園とは、国際的に特に優秀なものである椿園と認められた園です。伊豆大島の大島公園・大島高校の椿園も認定されています。大島公園の椿園は、園芸品種約1,000種3,200本と自生のヤブツバキ約5,000本を有する日本最大の椿園で、椿資料館では、椿に関するいろいろなことを知ることができます。是非次は、大島公園にも行ってみたいと思います。



<日本のツバキの花形のいろいろ>

一重グループ・・・猪口咲き、抱え咲き、平開咲き、筒咲き、ラッパ咲き、椀咲き

八重グループ・・・八重咲き、蓮華咲き、唐子咲き、二段咲き、宝珠咲き、

牡丹咲き、獅子咲き、千重咲き、列弁咲き

変化咲きグループ・・・キキョウ咲き、シャクヤク咲き、松笠咲き

- ・日本では一重の花に人気があるが、海外では八重や千重の豪華な花が好まれる。
- ・花色は紅、白、桃、絞り、白斑
- ・今はベトナムや中国原産の黄花ツバキを片親に日本で作出された黄花ツバキがある。(初黄 (しょうこう)、金蝶 (きんちょう)、かぎろひ)

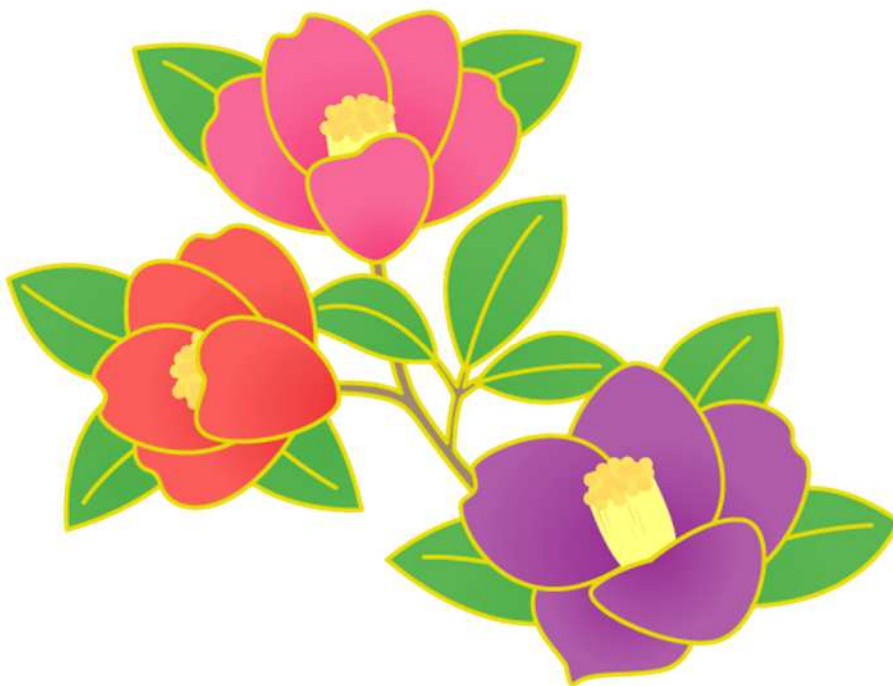
<参考資料>

- ・「色分け花図鑑 椿」

発行所：株式会社学習研究社

著者：日本ツバキ協会元副会長 桐野秋豊

- ・東海汽船のパンフレット





## 地球寿命一分弱の現実

### 2ブロック 近藤 文子

例年になく寒波に身を潜めている草花。耐えかねているのが、成長の遅れで良くわかります。猛暑の後には、極寒と、年々変わりつつある地球環境に、秋と冬が一番好きであった私の考えは一変してしまった。今年は特に、春が待ち遠しい。

さて、昨年十二月、永年活動されてきた「曳舟川親水公園花壇」が歴史を閉じるという話を聞きました。高齢の為とはいえ、京成電車から眺める花壇の花々に、どれだけの方々が心を癒されたことでしょうか。そこで公園課にお願いし、引き継ぐ事を決め、花壇の整備から始めました。清水ファームさんに耕耘して頂き、第二ブロックの協力員と、第四ブロックの田中協力員さんにも参加して頂き、花壇作りを開始。名称も「曳舟川親水公園花筏の会」と命名致しました。

十二月十八日午後より、協力を依頼していたガールスカウト第一四八師団の皆様と一緒に、チューリップの球根や草花の植付けをしました。

ガールスカウトの皆様は、さすが日頃の訓練の賜物か、黙々と手際よい活動には、頭が下がる思いでした。常備品である軍手も鞆の中に用意されていて、私達が見習うべき事が沢山ありました。団長の上田様との出会いで、



ガールスカウトさんの皆様と活動できる事に心強さを感じています。

この花壇も多くの花壇と同様で、座り込んで植えるという姿勢を取ります。しかし、長い目で見た時、高齢者の方々にも沢山参加して頂ける花壇作りの為に、今、お願いをしてある事があります。膝や腰に負担がかからない為の花壇は、ちょうど立ったまま作業ができる高さが必要です。図面を提出し、只今、希望に叶う花壇を作って頂きたく申請しています。多くの花壇活動をされている皆様の見本花壇と考えています。

老若男女が楽しく植付け、手入れに参加する為に最も重要なのが花壇の高さと幅。永年、花植え活動に参加してきた私個人の意見としてですが・・・。向かい合って手を伸ばし、お互いの手が届く幅が一番大切で、高さは少なくとも六十センチメートルは必要と思われます。

「無理のない姿勢で無理のない活動」、これが花壇活動の初歩であり、持続する為の基本とも思われます。今年一月、もう一カ所、「曳舟川親水公園花楽の会」を発足致しました。

社会福祉協議会会長 秋本さんの協力を得て、公園課より大きくて深いプランターを五ヶ所設置致しました。長い間、四つ木までの親水公園を、花いっぱい「フラワーロード」にしたいと勝手な夢を追い続けていましたが、その第一歩が踏み出されました。高齢者の方々八名が生き生きと、楽しくワイワイと植え付けて下さっている姿に発進して良かったと強く感じました。すぐそばに親水があり、いつでも施水する事が出来る立地です。諸事情で消えてゆく花壇活動もありますが、「また、

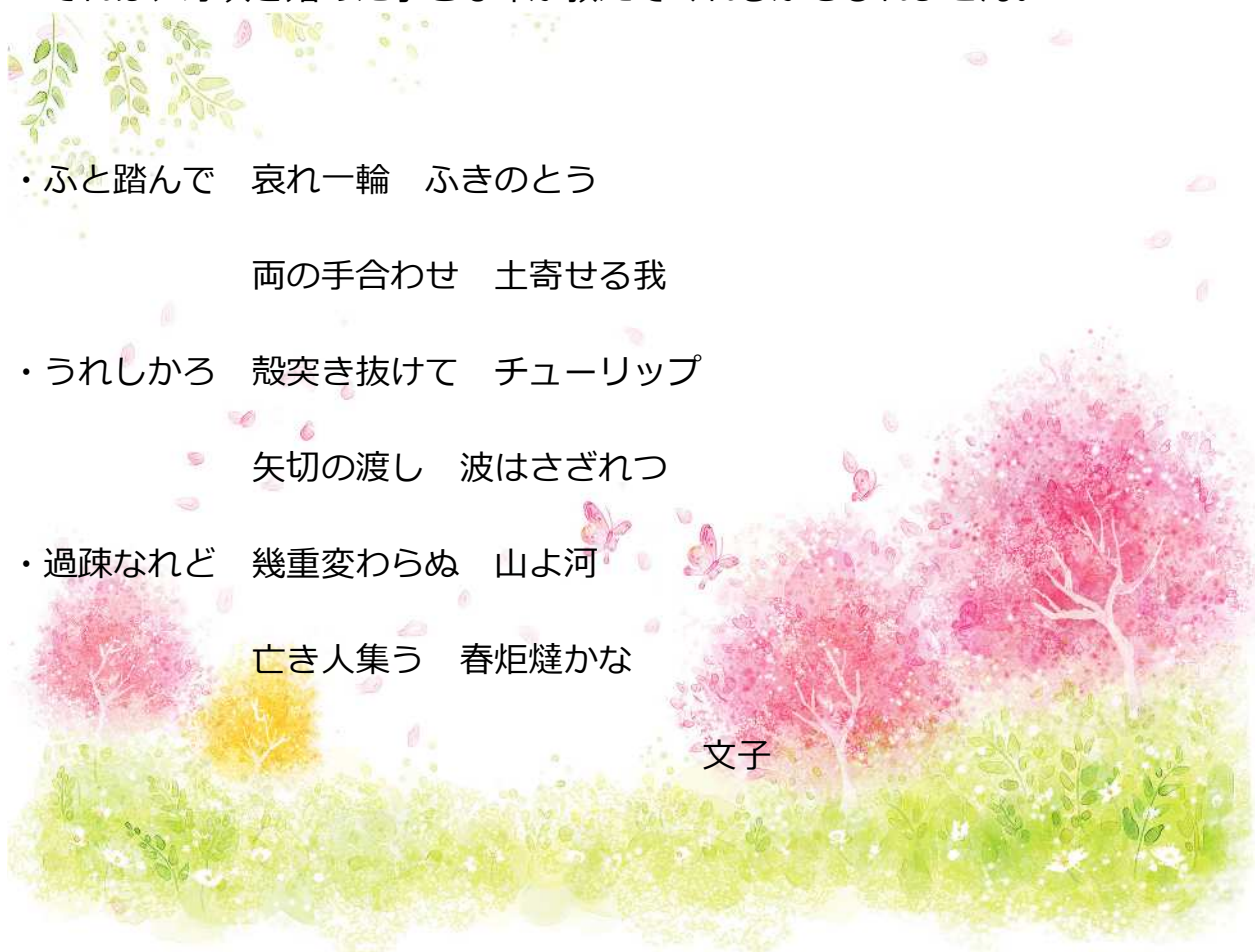
みんなで植えたい。」と思える、無理のない活動を広げてゆくことが大切と感じています。

日本語には「花鳥風月」「雪月花」等の文字に書いても美しい言葉が沢山あります。文字から浮かぶその響きに、まだ見ぬ自然や目の前の山河に「心地よさ」を人は感じます。「人」と「心」が寄り添い、共に生きる「命」を地球が預かり、背負い、育ててくれています。

「地球寿命」が一分に満たないと発表された昨今。しかし、今だ戦も止まず、国と国との利害ののろしのみが昇り続けています。いったい地球の生命は、人間はどこに向かっているのでしょうか・・・

「今だからすべきこと」「今だからできること」

それは、芽吹き始めた小さな命が教えてくれるかもしれません。



・ふと踏んで 哀れ一輪 ふきのとう

両の手合わせ 土寄せる我

・うれしかろ 殻突き抜けて チューリップ

矢切の渡し 波はさざれつ

・過疎なれど 幾重変わらぬ 山よ河

亡き人集う 春炬燵かな

文子

♪ 七色の花風船 ♪

作詞・作曲 高藤 藍 (近藤 文子)

一、 大きな虹の 橋を渡ると

声が聞こえる 歌声が

あなたと わたしが 育てる花の

命優しく 包む光よ

舞い上がれ 舞い上がれ

七色の 花風船

二、 青空高く 風よ雲よ

笑顔あふれる わが町よ

あなたも わたしも 見つめています

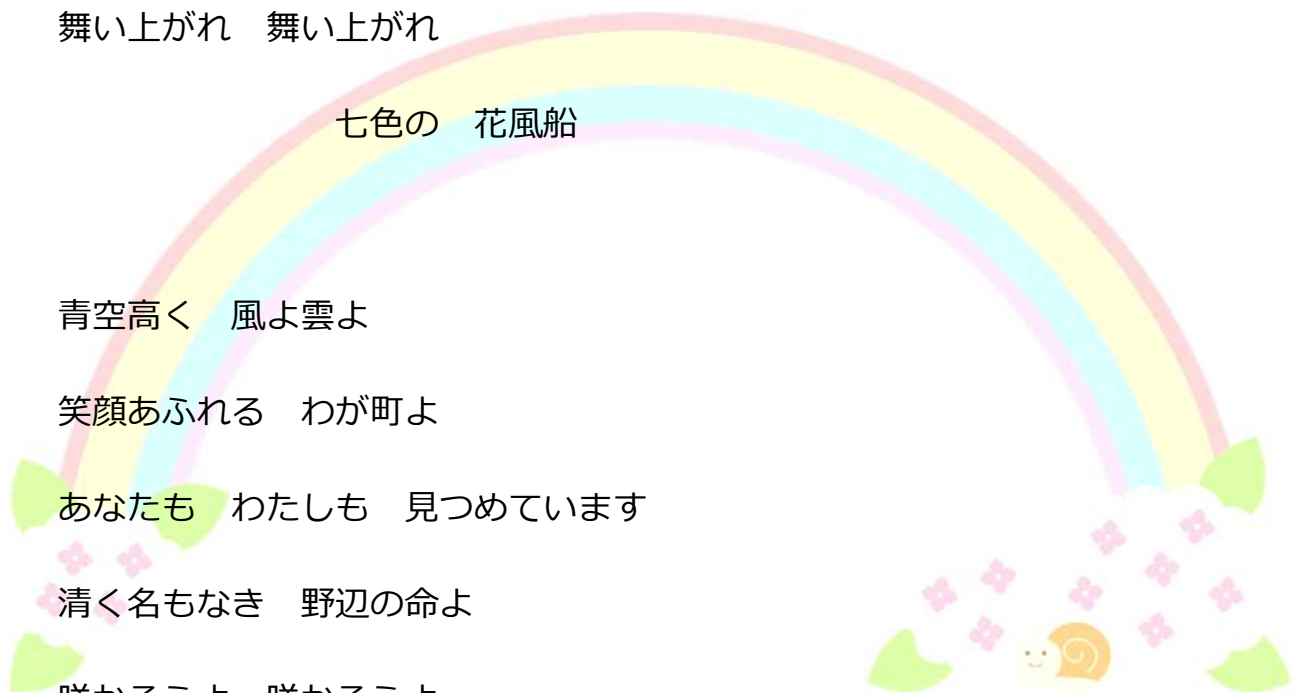
清く名もなき 野辺の命よ

咲かそうよ 咲かそうよ

七色の 花風船

咲かそうよ 未来へ つなごうよ 手と手を

架けようよ 大きな 大きな 虹の輪



## その名はビャッコイ!!

2ブロック 半田 建二

とても変わった名前だな？会津の白虎隊の名前なのかなとも思える不思議な名前が頭の片隅に残っておりました。

その片隅に牧野富太郎博士の名前もあった様に記憶しており、きっと植物に違いないと早速、図書館で調べてみたのですが、該当する植物に巡り合う事はかありませんでした。ネットで調べてみると該当する植物に巡り合う事は出来ましたが、基本情報はかなり乏しいので、国立科学博物館で【ビャッコイ】について標本を見たいとお願いしたのですが、資料はないと冷たい返事！！

こうなってくるとどうしても見たい、の気持ちが働き、次に向かった先は、東京大学大学院理学系附属植物園【小石川植物園】の受付でビャッコイを見たいのですがと申し出ると、ナイ！！とつれない返事。他の係員がヒョットすると、と言ってPCを動かし始め、冷温室にありますと、行って見ると関係者以外立入禁止、受付に戻りで入れませんでしたと伝えた所、研究室にメールして見学希望を伝えると叶いますよとアドバイス頂きましたが、まだみておりません。



## 【ビャッコイの由来・植物史】

福島県白河市表郷金山字瀬戸原地内の清水流中にのみ生える。

カヤツリグサ科ビャッコイ属の多年草。

明治 34 年頃植物好き少年、鈴木貞次郎氏（当時 12 歳頃）が採取し、福島師範学校の植物教室に照会、その時、採取地や採取日付を付けなかった為、戸の原口（会津）で採取された標本と一緒に牧野富太郎博士に送られ、博士が命名する段階で会津から送られてきたものと思い、会津にちなんで【ビャッコイ】と名づけたと！！

明治 38 年 牧野富太郎博士によって命名され植物学誌に発表

昭和 6 年 『日本植物総覧』公刊、名前の認知

昭和 30 年 12 月 27 日 福島県の天然記念物に指定



## 雑草雑感 Ⅱ

### 3ブロック 下井 守

前回このタイトルで神社の雑草取りでスミレを選択的に残している、そして、ツマグロヒョウモンという蝶の幼虫を見つけ、この幼虫はスミレを食草とするが、きれいな蝶になるので、見逃すことにしたことまで書いた。

次回はそのスミレの種類などを書けるかなと思っていたのだが、そのすぐ後で、とんでもないことになったので、その顛末を書いておこうと思う。

何が起こったかという大量のツマグロヒョウモンの幼虫が発生して、せっかく残しておいたスミレをほとんど食い尽くしてしまったのである。9月の下旬の夕方、少なくとも20匹を超える幼虫がそこら中を這い回ったり、スミレの葉を食べたりしていた。パンジーなどと異なり、日本のスミレの株は小さいので、その後、ほんの数日でほとんどのすみれが姿を消してしまった。もちろん根は残っているので、数週間すればまた葉が出てきたので、全滅というわけではなかったが、冬に向かっている時で株は大きくはならないので、来春の花がどれだけ期待できるのか心もとなくなってしまう。少なくともスミレが咲き乱れるというところまでは行かないと思われる。

実は、ツマグロヒョウモンという蝶は我々が若い頃には東京では見られなかった蝶で、温暖化で最近見られるようになったようである。ヒョウモンというのは豹柄のことで、後翅の先端が黒いのでツマグロヒョウモンという名前がついている。オ



スは羽根全体が豹柄であるがメスは先端が黒っぽい青から紫の色をした美しい蝶である。保育社の原色日本蝶類図鑑の写真載せておく。(写真1)



写真1 ツマグロヒョウモンの成虫 (白水隆監修 原色日本蝶類図鑑 保育社より)

何年か前に、鉢植えにしていたパンジーで幼虫が育っていたことを見つけたことがある。パンジーだと葉の陰に隠れて見つけにくいだが、野生のスミレに取りついている時はすぐにわかる。(写真2)



写真2 スミレに取り付く幼虫

面白いことに、葉っぱを一生懸命食っている最中に、その近くで草を抜くなどすると、振動には敏感で食事をピタッとやめ、いっさいの動きを止めてしまうことに今回気づいた。止まって

しまっても、全身は丸見えだし、派手な

色使いの幼虫なので、鳥などには食べられてしまいそうなのだが警戒心が強いのであろう。

蝶は食事をしていた場所からかなり離れて蛹になるので、普通はなかなか見つからない。ところが、年末のパトロールと一緒に参加していた女性が、神社の社務所



の外壁で見つけた蛹が、私が話していた蝶の蛹ではないかと、スマホで撮った写真を見せてくれた。蛹のことまで知らなかったが、後で調べると確かにツマグロヒョウモンの蛹だった。幼虫に劣らず、すごく特徴のある蛹なので、その写真を貰い受けた（写真 3）。残念ながら、その蛹は見つけた数日後には取り除かれていたとのこと。見るからに毒々しい蛹なので、気づいた誰かが取り除いたのかと思われる。『蛹から成虫になるときはまさに“豹変”するという形容がぴったりだな』などと親父ギャグを思いついて悦に入っている。



写真 3 蛹

来年は幼虫を見つけたら、パンジーに移してそちらで育ててみようかと思っている。倅が多数のアゲハチョウを飼育していた経験からすると、食草だからと言ってなんでも良くはなく、どうも最初に食べた植物しか食べないということなので、日本のスミレを最初に食べた幼虫が果たしてパンジーで育つのかも知りたいところである。



## 花と家庭菜園

### 3ブロック 杉本 明

令和4年10月ごろに、マリーゴールドの種を頂いて蒔いたところ、季節外れではありますが、12月から1月にかけて満開に花を咲かせました。普通の色とは違い、赤と黄色の混じり合いで綺麗な花でした。

緑化での土作り、肥料の配合は教えていただいた通りに実行をしました。

プランターには、小松菜とほうれん草の種を蒔きました。今では15cmぐらいに葉も出てきました。霜除けシートを被せて寒さ凌ぎにしています。

サヤエンドウも庭に12月頃に種を蒔きました。こちらも同じように寒さ除けに霜除けシートを被せて、30cmぐらい葉が出てきて成績が良いです。

チューリップも芽が出てきて、何色が咲くか楽しみです。

ハッサクの木にも沢山の実がなり、色がついて綺麗です。コロナ禍の中でも、外に出て緑に触れると心が和みます。



## 人との出会いは不思議

### 4ブロック 田中 あや

去年 12 月 6 日、間栗公園のコンテナ 7 個にカルーナ、花かんざし、パンジーをボランティア仲間と植えました。

12 月の天候も、正月を越えた 1 月の天候も穏やかな日々の流れです。公園も冬なので閑散としていますが、日曜日などは子供達の遊ぶスポットです。また散歩途中の休息場所であり、健康対策にバランス器具などが揃えてあります。



久々に箒と如雨露、ペットボトルを用意して一本道の並木を歩く。植えた花々は葉も生々として、特に花かんざしの清楚な白の花びらとめしべ、おしべの紅色の可憐な姿が、初春の風を待っている様に見えます。花柄を摘んでいると、年配の女性が話しかけてくれました。

手を休めていろいろな会話の中「私も花が大好きで家の庭には沢山の花を植えて咲いていたんだけど・・・ネ」。私は、もう過去形なのかと驚きましたが、女性は花が大好きだったので花壇のボランティアを経験したかった事、しかし家族の介護で断念した事などたくさん話げできました。

突然女性は「私にもお手伝いさせて下さい」、私も「もちろん一緒に」とお願い致しました。女性はペットボトル 2L に水をくみとり何回も運んでくれたのです。共



に作業する喜びと感謝の気持ちでいっぱいでした。

マスクは表情などコミュニケーションが低下するけれど、目の表情や肢体の動きで互いに喜び、満身に気付けるのです。

人との出会いは風の気配などファッと寄りそって不思議な想いに気が静まりました。

またあいましょう。





## 編集後記

「待つ心」は毎日の暮らしの中で、頻繁に表出する人の必須マインドです。今の暮らしを少しでも改善しようとする、未来に対する生活目標を持つとき、そこには「待つ心」が大切です。しかし、ただ単に待つのではなく目標到達のための、抱負を持ち、実行する努力も必要です。緑化推進にも「待つ心」が重要です。それは緑を増やすために、種子や苗を大きく育てるための、「待つ心」です。すなわち緑を育てるための行動を起こし、活動をしていくことと共に、緑を見守り「待つ心」で緑比率を高めつつ、暮らしの中に緑を位置づけることです。

私は、緑化推進協力員としてこの「待つ心」を胸に抱きながら、緑を育てる地道な実践を重ねていく覚悟です。

1ブロック 佐々木 定治

.....\*.\*.\*.\*.....

昔から我が家の庭には紅のヤブツバキの木があり、花を咲かせ心を和ませてくれます。

「色分け花図鑑 椿」に、「ヤブツバキは寒さに強く、丈夫で育てやすい長寿の木で、多くの品種を作りだし他の原種とも交雑しやすく、育種上では欠かせない原種。古くから日本人の生活に密着した有用樹種で、椿油、椿材、薪炭、椿灰など利用価値が高い」とあります。いつも綺麗に咲いてくれる椿に感謝・

2ブロック 五十嵐 美鈴

.....\*.\*.\*.\*.....

3月に入り、春の訪れを気候、草木など周りの変化で感じ、身の動きも軽くなってきています。楽しい季節になりました。

今、我が家では、ハーデンベルギアが2月から花の芽が出てきて、3月になって花が咲き、花盛りになっています。昨年に枝を柵に巻き付けて伸ばして、時折の追肥も、手入れも行い、育ててきました。感激です！

また、クレマチス、ツルニチソウが花芽を出してきています。いつ咲いてくれるかと毎日声を掛けて、待っているよと思いながら、眺めています。

毎日、暖かく穏やかな中、水やり、手入れで楽しんで過ごすのがこの季節の醍醐味です。

3ブロック 江良 ヒデ子

.....\*.\*.\*.\*.....

コロナ禍によって変わることを余儀なくされた社会も一様の落ち着きを取り戻し、どのようになるかはわかりませんが、まだ変わっていく変遷の最中です。そんな中で、私たちは私たちのできる事を行っています。そのうちの 하나가、ずっと携わっている緑化推進協力だと思っています。

どんな時でも、道すがら花や緑が目に入れば、それはきっと生活の潤いに、また癒やしになってくれると思います。協力員の方々の活動が、作る花壇や草花の彩りが、きっと誰かに届いていると思います。そのように緑化推進協力員の活動を通して社会に貢献し、みんなの手を取り合い、地域によりそった活動を続けて行けたら良いですね。

4ブロック 直井 勝